

令和八年度 第79回 入学式 校長式辞

桜の花が舞い、吹き渡る風にも新たな息吹を感じる季節になりました。この佳き日に、さいたま市教育委員会教育委員堀田香織様、PTA会長吉澤恵理子様、あけぼの会会長福田美香様の御臨席を賜り、保護者の皆様の御出席のもとここに、さいたま市立浦和高等学校 令和八年度 第七十九回 入学式を挙げてまいりますことは、私ども教職員一同、この上ない喜びでございます。

ただ今、入学を許可された新入生の皆さん、御入学おめでとうでございます。皆さんの入学を心より歓迎いたします。皆さんは今日から、歴史と伝統のある「さいたま市立浦和高等学校」の一員となりました。皆さんによって本校八十六年の伝統が引き継がれるとともに、若い歓喜にあふれた新たな歴史が築かれることを大いに期待いたします。

保護者の皆様、お子様の御入学誠におめでとうでございます。義務教育を終え、希望を胸に高校生として新たな一歩を踏み出すことは、感慨もひとしおのこととお喜び申し上げます。これから三年間、教職員一同、お子様の成長を全力で支援してまいります。申すまでもなく教育には学校・家庭・地域の三者の協力体制が必要でございます。お互いの信頼関係を築きながら、日々の教育活動を充実させる所存であります。行き届かぬところもあるかと存じますが、なにとぞ保護者の皆様の御理解・御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

本校は、昭和十五年の旧制浦和市立高等女学校に始まり平成十三年さいたま市誕生とともに「さいたま市立浦和高等学校」と校名を変更、平成十九年には「浦和中学校」を併設し、中高一貫校となりました。「高い知性と豊かな人間性・社会性を兼ね備え、国際社会に貢献する高い志を持った人材を育成する」ことを教育目標とし、毎年着実な成果を上げております。

さて、本校の一員となった新入生の皆さんに、私から高校生活三年間をとおしお願いしたいことと、今日高校生活のスタート日に送りたいことばをお話ししておきたいと思っております。

お願いしたいこと、それは「夢を持ち、計画的に準備して、勇気をもって挑戦せよ」「失敗を恐れるな」ということです。

高校入学にあたり皆さんは本校で何をやりたいですか。何の目標をもって学

校生活を送りますか。入学式に当たり自分の志を定めることは大きな意味があるのです。目標を決めて挑戦することの大切さについて、おそらく小学校、中学校時代から何度となく皆さんはお話を聞いてきたことと思います。ではなぜ挑戦が必要なのでしょう？私は挑戦とは成長と同じ意味だと考えています。若い皆さんが成長するためには、今まで経験したことのないこと、自分の未知の領域を知ること、自分の限界に挑むことが必要です。当然上手いいかないこともあるでしょう。気持ちがめげることもあるかもしれません。でも仮に失敗はしても、その原因を明らかにして準備をしっかりと行い、もう一度絶対成し遂げるという強い気持ちでやり続ければ、経験値が上がり、違った世界が見えてくることでしょう。失敗を恐れるあまり何も行動しない、これは非常にもったいないことであり、悲しいことです。高校時代の3年間は人生の土台を作る時期でもあります。たくさん学び、たくさん汗をかき、たくさん失敗することによって見えてくるものがあります。私自身も今こうやって皆さんにお話しさせていただいていますが、実は高校時代、いや大人になってからも、そして今の職についても失敗をしてきました。あまりに失敗しすぎて自己嫌悪に陥ったことも何回もあります。完全な人間がないのと同様に、失敗をしない人はいません。どうか皆さんには、失敗を恐れず勇気をもってチャレンジし続けて欲しいと願っています。

今日の午前中は在校生2年生、3年生の1学期始業式を行いました。その始業式の校長講話の中で、サッカー日本代表森保一監督のことばを紹介いたしましたので、新入生の皆さん、保護者の皆様にも共有させていただきたいと思えます。あと2か月少して2026サッカーワールドカップが米国、カナダ、メキシコで開催されますが、日本はこのホスト国3国以外では、世界で一番早くワールドカップ出場を決めました。これはもの凄いことだと思います。先日もサッカーの聖地ウエンプリースタジアムでイングランドに日本は歴史的勝利を収めました。日本チームの選手個々のレベルが格段に上がっていることは間違いありませんが、私はチームを束ねる力、分析力、指導力も含めて森保監督は素晴らしい監督だと考えています。その森保監督が「失敗」についてこんなことを言っています。

「失敗は悔やむものではなくて、次に生かすもの。

失敗は悲しむものではなくて、成長のこやしにするもの。

失敗は嘆くものではなくて、次の飛躍への踏み台にするもの。

失敗するからよくなるものがある。

失敗しても失敗しても失敗しても何度でも立ち上がり、次のステージに飛躍しよう。」

「失敗」を次にどう生かすか、気持ちをどのように持つのか、これが失敗の哲学だろうと思います。森保監督のことばを大切に胸に刻んでください。

皆さんにはたった今から始まる高校生活をどう過ごすのか、あらためて自分の夢や将来像を心に描きながら高い志を立てて行動してもらいたいと願っています。

それでは、一日一日を大切にしていりある学校生活を送っていきましょう。我々全教職員で皆さん一人ひとりを丁寧にサポートしていきますのでどうぞ安心してください。共に頑張りましょう。

結びに、本日御臨席を賜りました皆様にあらためて御礼を申し上げますとともに、新入生の皆さんがこの浦和高校で大きく成長されることを心から願い、式辞といたします。

令和八年四月七日

さいたま市立浦和高等学校長
齋藤 潤